

2018 スーパーGT 第5戦
 富士スピードウェイ
 2018年 8月4日(土)

予選 来場者: 22,100人 天候: 晴れ時々曇り

前戦、第4戦の決勝レースにおいて、終盤にトップを猛追する激走の末にリタイヤしてしまった LEXUS TEAM au TOM'S は、舞台を LEXUS のホームコースである富士スピードウェイに移して第5戦を迎えた。今回のレース距離は 500mile=800km のシリーズ最長のレース。灼熱の富士で今季初勝利を目指して、予選のポールポジション獲得に向けて予選アタックをおこなった。全てのセッションで LEXUS 勢最速のタイムを記録。決勝レースは、3番手グリッドからスタートすることとなった。



シリーズの後半戦に入って、36号車は、30kgのウエイトハンディを搭載している。

- 午前中の練習走行では、度々トップタイムを叩き出して、順調な滑り出しを見せた。
- 気温が30℃を超え、路面温度は、ピーク時に47℃を超えていた。
- 中嶋一貴がQ1のタイムアタックを担当。タイヤにじっくりと熱を入れてアタックを行い、3番手でQ2への進出を果たした。
- Q2担当の関口雄飛も同じく、タイヤのウォームアップを十分におこなってからアタックを開始し、中嶋と同じく3番手タイムを叩き出した。

DRIVER	Car No.	Qualifying 1		Qualifying 2	
中嶋一貴	36	P3	1:30.653	P3	1:28.749
関口 雄飛					
天候	晴れ時々曇り/ドライ				
気温/路面温度	気温: 31-31度C		路面温度: 44-42度C		

中嶋 一貴(36号車ドライバー)



「マシンの調子は、完璧というわけではありませんが、それでも LEXUS 勢の中では、常に最速だった。ウエイトハンディなりのパフォーマンスということでしょうか。しかし、GT-Rの速さには、お手上げという状態ですね。われわれよりも重いウエイトハンディを背負い、そして燃料リストラクターを装着しているにも拘らずポールポジションを獲得。チームメイトの1号車と同等のウエイトハンディなのに、それよりも約1秒速い。それが決勝でも同じ状況だったら考えると、本当にお手上げですね」

関口 雄飛(36号車ドライバー)



「練習走行から予選へ向けて、着実にマシンのセッティングも決まって、一貴君も自分もミスなく走ったのにトップと約0.3秒の差をつけられてしまった。ライバルは速いなという思いですね。GT-Rは、第3セクターが速いですね。明日の決勝は、800kmのレースですから、ブレーキに負担がかかるので、クーリングにも気をつけて走るように言われています。作戦云々というよりも、ミスなく走り切る。その結果がどうあれ、頑張るだけです」

東條 力(36号車エンジニア)



「現状、われわれができる最大限のアタック、予選を戦うことができたと思っています。前に2台のGT-Rがいる。それが現在の実力を示していますね。決勝を見据えて、固めのタイヤをセットしていますから、しっかりとタイヤに熱を入れてからアタックするという作戦でしたが、2人のドライバーは、完璧に仕事を成し遂げたと思います。ライバルがどのような状況、どのようなタイヤをセットしているのかわかりませんが、長丁場ですから相手の出方を見つつ、勝利を目指します」

伊藤 大輔(36号車チーム監督)



「今回、ポールを狙っていたし、獲りたかったですね。自分たちの力をすべて発揮できた予選だったのですが、3番手。練習走行でGT-Rの23号車が速かったのでマークしていたのですが、予選の蓋を開けてみたらやはり速かった。決してわれわれのポジションも悪くはないのですが、このまま決勝を迎えることになって、どうしたものかなと思案中です。明日は、長丁場。4回のピットが義務づけですから、チームとしてもミスのないピット作業の準備もしてきましたから、その成果を発揮してゴールを目指します」

館 信秀(総監督)



「予選3番手だったわけだけれど、前にいる2台のうち、1台はウエイトハンディがわれわれよりも、とても軽いからしょうがないとしても、ニスモさんの23号車は、ウエイトハンディと燃料リストラクターが課せられているにも関わらずポールを獲得したことは、驚異的だ。しかし、決勝に強いトムスとしては、決して諦めていない。良いレースを期待して欲しいですね」

2018 スーパーGT 第5戦
 富士スピードウェイ
 2018年8月5日(日)

決勝 来場者: 38,300人 天候: 曇り時々晴れ

今シーズン最長の500mile(約800km)レースで行われた2018 スーパーGT 第5戦において、LEXUS TEAM au TOM'S の36号車は、3番手グリッドからスタートし、序盤から順調にポジションをアップ、最初のピットインのタイミングでトップに立った。しかし、ピットストップでのタイムロスにより順位を下げてしまったが、コース上で挽回、再びトップ争いまで順位を上げることに成功。最終ステントで再びトップに立つとそのままゴールに邁進、今季初優勝を飾った。2位にチームメイトの1号車がつけて、2005年にSUPER GTに名称を変えて以降、トムスにとって初の1-2フィニッシュとなった。



- 今回のレースでは、4回のピットストップ、その際に必ずドライバー交代することが義務づけされた。
- 関口雄飛がスタートドライバーを担当。ステント中盤から前の2台との差を縮めて1台をパス。その後ラップタイムの上からトップとの差を一気につめると、ライバルGTRが早めのピットイン。トップに立った関口は、好タイムを連続してマーク。トップに立った。
- しかし、最初のピット作業中に右リヤのホイールナットがうまく締まらず、大きくタイムロスしてしまった。代わった中嶋一貴がコースに復帰した時には、5番手まで順位を下げてしまっていた。そこから再び順位を挽回。2回目のピットストップの時点では、トップ争いを繰り広げる順位まで挽回していた。
- レースの中盤からは、同じブリヂストンタイヤを装着する12号車のGT-Rとのトップ争いを演じ、最終ステントへ中嶋から関口に交代した時点でトップの12号車とのタイム差は約20秒。終盤の逆転劇に望みをかけ、関口が再びコースインした。
- 関口のコースインと同時にトップの12号車がスローダウン。177周レースの148周目にトップの座を確実にした。
- 数秒差で2位に1号車がつけて、記念すべきトムスの1-2フィニッシュが達成された。
- 今回、700km以上のレースなので、通常の20ポイントに5ポイントのボーナスポイントが加算され、合計25ポイントが与えられ、ランキング2位へ躍進した。

DRIVER	Car No.	Race Result / Fastest Lap	
中嶋一貴	36	P1	1:31.418
関口雄飛			1:31.185

天候	曇りときどき晴れ/ドライ	
気温/路面温度	気温: 31-28度C	路面温度: 47-34度C



中嶋 一貴 (36号車ドライバー)

「最後のピットストップで雄飛(関口)に交代した時には、このまま2位で終わるのかなという気持ちもありました。でもペースは良かったし、雄飛なら抜いてきてくれるかなという期待も…。そしてトップがスローダウン。これまで雄飛には不運が続いていたから、今回勝ててよかったですね。チャンピオン争いなど前戦までは考えられなかったけれど、ここで勝てて、可能性が出てきましたね」

関口 雄飛 (36号車ドライバー)

「トムスに加わってから表彰台すら立てていなかったのが、優勝できてとても嬉しいです。ピットのタイムロスは、人間ですからミスもあるし、そんなことを悔やんでもしょうがないと、気持ちを切り替えました。マシンの調子は最高でした。今後、ウエイト+燃料リストラクターというハンディを貰うことになりましたが、どんな状況なのか楽しみにしていますよ」

東条 力 (36号車エンジニア)

「予選では、悔しかったですけど、決勝日の朝にトップタイムをマークして、勝てる自信はありました。でも、ピット作業でタイムロス、ナットがうまく締まってくれなかった。そこからドライバー二人が頑張ってくれました。トップの車両のトラブルでトップに立ちましたけれど、こっちのペースが若干良かったので、最後の最後で捉ええることができたと思います。そして、1号車も2位に入って最高ですね」

伊藤 大輔 (36号車チーム監督)

「序盤からトップに立ったと思ったら、ピットでタイムロスしてしまいました。2回目のピットでは、焦らずにナットの状況の確認作業をしてマシンを送り出しました。12号車は、トラブルだったようですが、決勝では、われわれのマシンが一番速いと手応えを感じていたのが勝負できたと思います。チーム全体で優勝するために準備してきたので、結果を残せて本当に嬉しいです。ビッグポイントも獲得できて、シリーズの終盤戦に向けて弾みがつきました」

館 信秀 (総監督)

「最高のレースでした。最初のピットインでは、<アレっ>という感じでしたが、そこから、チームの本来の実力が発揮された。ホツちゃん(星野一義監督)のチームとの一騎打ちになりましたが、最後は、あちらにトラブルが出たようで、一貴(中嶋)が一昨年のルマンで経験したことと同じようなトラブルが起きたようですね。コース上でのすごいバトルをお見せできなかったのは残念ですが、トムスにとっては初めての1-2フィニッシュ。これでランキング1位、2位。このまま最終戦まで突き進みたいですね」

※次戦の第6戦は、9月15-16日(日)に宮城県のスポーツランドSUGOで開催されます。